

万国外科学会日本部会ニュース

1995 No. 1 1995年4月発行

万国外科学会日本部会代表 出月康夫
事務局長 比企能樹

万国外科学会日本部会事務局

〒350 埼玉県川越市鴨田辻道町 1981

埼玉医科大学総合医療センター第2外科内

TEL 0492-25-7811 FAX 0492-26-2229

担当 村田宣夫 (埼玉医科大学第2外科)

嶋尾 仁 (北里大学東病院消化器外科)

ごあいさつ

日本部会代表 出月康夫

このたび“日本部会ニュース”を会員の皆様にお届けすることになりました。従来から会員の皆様にはスイスの学会本部事務局(Pratteln)からMembership DirectoryとNewsletterが定期的に届けられ、また学会誌World Journal of Surgeryもお手許に届けられていると思いますが、この“日本部会ニュース”を発行することによって会員の皆様に学会の必要な情報をより早くお届けし、また会員相互のコミュニケーションにも役立てていただければと願っています。御意見や、御希望があればどしどしお寄せ下さい。このニュースの発行が実現したのは日本部会事務局長比企能樹教授の御盡力によるもので心から御礼申し上げます。

さて、万国外科学会(ISS/SIC)は1902年にベルギーで創設された世界で最も古い由緒のある外科の国際学会です。1905年ブリュッセルで第1回学会が、外科医としては初めてノーベル賞を受賞したTheodor Kocherを会長として開催されて以来、これまで90余年の間に5大陸28都市で計35回の学術集会を開催してきました。最近では隔年毎に本学会が中心となって多数の外科系国際学会が一堂に会してInternational Surgical Weekとして同時に盛大に学会が開催され、外科では最も大きなイベントとなっています。今年は里斯ボン市(ポルトガル)で、来る8月27日~9月2日の間盛大に開催される予定です。

このInternational Surgical Weekには従来から日本部会の皆様方をはじめ日本の先生方も多数参加してこられましたが、今回の里斯ボンの学会では日本の先生方のこれまでの実績の上に立って、私が会長を勤めさせていただくことになっております。会員の先生方には、今回も是非多数ご参加をいただき、一層の御支援を賜わりますようお願い申し上げます。

日本部会では従来から日本外科学会総会と日本臨床外科学会総会の会期中に部会を開催して必要な情報の伝達や、関連国際学会の情報の交換を行ってきましたが、今後はこの“日本部会ニュース”も会員の皆様に十分に活用されることを期待しております。

日本部会連絡会議議事録

日時: 1994年11月18日(金) 12:30~13:30

(第56回日本臨床外科医学会総会 第2日)

場所: 東京ベイヒルトン第3会場

[参加者]

出月康夫、比企能樹、阿部令彦、高木弘、高木淳彦、許斐康熙、宮崎耕治、石川正昭、山川達郎、阿部力哉、阿曾弘一、曾我淳、原田種一、斎藤和好、中川原儀三、武藤良弘、桜井健司、小西敏郎、原口義座、嶋尾仁、嶋田紘、高井新一郎、村田宣夫

(順不同、敬称略)

司会 比企能樹

議題

1. 日本代表(出月康夫教授)挨拶

2. 事務連絡

庶務報告を高木淳彦より行った。

(1) 日本の現在の会員数は名誉会員1名、Senior会員9名、Active会員144名の計154名である。

(2) 今年度の日本部会連絡費として2,000円の払い込みをお願いして現在も集計中である。

(3) 本部から年会費120ドルの請求書が各先生に来ていると思われる。お忘れなく払い込んで下さい。

(4) 事務局が東京大学第2外科から埼玉医科大学総合医療センター第2外科へ移転した。

移転先の住所

〒350 埼玉県川越市鴨田辻道町 1981

TEL 0492-25-7811 内線5518

FAX 0492-26-2229

事務局での事務取り扱いは高木淳彦より村田宣夫に変更となった。

3. 会議報告

(1) 次回(1995年)里斯ボンでの万国外科学会より、会長が出月康夫教授となる。任期は2年間。

(2) ISS本部がBaselからPrattelnに移転した。

(3) 年会費が\$110から\$120へ値上げされた。(これにはWorld J Surgeryの購読料を含む)

- (4) General Secretary が Ruedi (スイス) に変わった。
- (5) 香港の学会は Registration fee を 300 人免除したため、多額の赤字となり本部より補填した。
- (6) 第 36 回大会は関連学会と合同で International Surgical Week として 95 年 8/27~9/2 リスボンで行われる予定。前回香港へは日本から 400 名参加したが、リスボンへも大勢参加していただきたい。
- (7) リスボン以降の学会は、1997 年メキシコ・アカプルコ、1999 年イギリス・バーミンガム、2001 年(100 周年)ベルギー・ブリュッセル、2003 年未定。
- (8) 2003 年に日本での学会開催を招致するかどうか、今後検討したい。

4. 他学会のお知らせ

IAES : 高井新一郎先生より

ICS : 阿部令彦先生より

本年度はロンドンであったが 1996 年は京都で行われる。

医学会総会 : 95 年度 高木弘先生より

国際外科学会日本部会 : 山川達郎先生より

アジア内視鏡外科学会 : 山川達郎先生より

95 年 6 月 19 日 ~23 日 香港で行われる。

5. その他

次回の日本部会連絡会議は、来年の外科学会時に行う予定である。

万国外科学会 (ISS) の規約および歴史

日本語訳の御紹介 訳者 村田宣夫、小高明雄

万国外科学会 (ISS) の規約

第一章 – 名称

本会は、1902 年ベルギーのブリュッセルで創設され、その名称は、万国外科学会 [International Society of Surgery (ISS)/Société Internationale de Chirurgie (SIC)] とする。

第二章 – 目的

本会は、外科学の研究や教育、および世界中への技術普及を促し、科学および技術としての外科学を発展させることを目的とする。

この目的を達成するために以下の事業を行う。

I. 万国外科学会 (The World Congress of Surgery): 国際外科週間 (International Surgical Week: ISW) として開催される。

この学会の主要目的:

- 本会の運営に関するあらゆる重要事項を決議する総会を開く。
- 全ての外科医に最近の進歩や興味ある問題

点を提示する。

- さまざまな外科の専門分科会を同時に行えるよう場所を提供する。
- 合同の集会、パネル、ワークショップを開き、さまざまな外科専門医間における学術交流を推進する。

II. 地方支部の運営による本会主催の支部会(学術集会、講演会)の開催

III. 万国外科学会誌 : The World Journal of Surgery – 学会の正式な機関誌の発行

IV. 個人会員と直接に個別的連絡を取るための Newsletters の送付

V. 書籍、マニュアル、その他の出版

第三章 – 会員

第 1 条 種類

会員の種類は、正会員 “Active member”、特別会員 “Senior member”、名誉会員 “Honorary member” とする。

第 2 条 資格

すべての会員は、外科領域で訓練を受け、重症患者の治療や外科研究の専門的技術などの外科学に必要な分野で専門家であり、現在(あるいは、これまで)外科を専門職としている医師でなければならない。

a) 正会員は、外科領域での専門技術あるいは学術的な業績で傑出しており、人格的にも尊敬される医師でなければならない。正会員の候補者は公認された全国的な学会の 1 つの会員でなければならない。各国の支部(ない場合には 2 人の正会員)の推薦によって、理事会は、外科に関連した分野での個人会員として、任命することができる。医学的な理由から正会員は、会費納入の免除を、事務総長に書面で要求することができる。

b) 特別会員は、外科臨床から引退し、正会員として少なくとも 15 年以上在籍した会員でなければならない。特別会員の資格の請求は、事務局長に直接、または国の代表者(あるいは支部の幹事)を通じて書面で申し込まなければならない。理事会は、本会に特別な貢献のある場合、正会員が 15 年未満のうちに専門職を引退したものでも特別会員に認定できる。

c) 名誉会員は理事会によって認められなければならない。対象者は、真に国際的に高く評価されていて、本会に著名な貢献をした会員でなければならない。

d) 関連外科学会

1) 直接関連学会

直接関連学会の会員は、本会のすべての権利と義務を持ち、特典もすべて得る。

直接関連学会は、その主体性と組織を維持する。その会員は本会の登録簿に記入される。

直接関連学会の中で会員が150人以上ある学会は、本会の理事会で投票権を持つ評議員と、編集委員会およびプログラム委員会の両方で、投票権を持つ者を代表に指名できる。(第四章第1条h、第五章第2条と第6条)。

直接関連学会は、The International Association of Endocrine Surgeons (IAES)、The International Association for the Surgery of Trauma and Surgical Intensive Care (IATSIC) の2つである。

2) その他の関連学会

関連学会は、International Surgical Week (ISW) として開催される World Congress of Surgery や、本会主催の他の集会に、それぞれの会員を、本会の正会員として登録しなくとも参加することができる。会議への関与の程度は、学会相互の合意のもとに調整される。

第3条 推薦と選任

候補者の推薦と選任は以下のように行う。

正会員：正会員として入会を希望するものは、必要事項を本会のさだめる申請書に記入し、支部の幹事か国の代表者に提出する。支部の推薦人として2人の正会員が、申請書にサインし、推薦状を添えて各支部宛に送らなければならない。支部の幹事または国の代表者は、支部の委員会で承認された候補者の申請書を本会の事務局長へすみやかに送付する。

200人以上の会員を持つ支部では以下の方法が適応される。

第3条の最初の段落で述べたように、会員になる条件が満たされているかを、支部の委員会(National Committee)と支部の会長が諮問委員会の会員に任命した会員と共に再審査する。

それぞれの候補者の選任に関する推薦は、国の委員会の例会で会員にはかられる。

出席した会員の少なくとも4分の3以上の賛成が本会の正会員の候補者として推薦されるためには必要である。支部の幹事は、国の委員会によって承認された候補者の申請書のコピーを直ちに本会の事務局長へ送付する。国の委員会によって承認されなかった候補者は、申請が撤回されなければ、最初の票決から2年間続けて国の委員会によって自動的に再検討される。選任されなかつた候補者については、1年間待ってから再び支部へ推薦することができる。

支部によって会員に推薦された候補者のすべての完全な申請書は、確認のため、事務局長から理事会へ公表される。

支部のない国では、他のどの国の正会員でも、2人の直接の推薦人となることができ、通常の申

請書を使ってよい。このような直接推薦による正会員の選出には、本会の理事会の満場一致の賛成が必要である。

第4条 会員の権利と義務

- a) 正会員は、本会の総会で決められた会費と支部の維持費を納めなければならない。
投票権をもち、本会の役員として務め、委員会へも出席できる。World Journal of Surgery を含む本会のすべての出版物を受け取ることができる。
- b) 特別会員は会費や支部の維持費を納める必要はない。投票権はあるが、役員としては勤められない。学会の通知は受け取ることができるが、本会の出版物は料金を払わないと受け取ることはできない。
- c) 名誉会員は、正会員の権利をすべてもっている。会費や維持費も払う必要はなく、料金を支払わなくても本会の出版物をすべて入手できる。
- d) 本会からの退会は、その年度の終了する少なくとも3カ月以上前に、国の代表者と事務局長に書面で届け出なければならない。年会費は退会の年の終わりまで納めなければならない。

- e) 書面で滞納の警告があった後、2年間年会費を納めない場合には会員権を失う。本会からの除名は、書面で会員へ通知される。

第四章 - 役員

第1条 役員の種類とその任務

本会の選出された理事は、本会の会長、学会々長(次期会長)、事務局長、副事務局長、会計、World Journal of Surgery の編集委員長、全体から選出された4人の理事と、少なくとも150名の会員を持つ統合学会によって指名されたもう1人の理事である。

本会の役員は全員名誉会員と同等にみなされる。事務局長が、辞任の意志を文書で表明した場合はすぐに、また事務局長の3期目の終わりまでの最後の2年前に、次期事務局長を別に選出しなければならない。

役員の任務と任期については以下に記す：

- a) 本会の会長は本会のすべての集会を議長として開催し、討論を司会する。別に定められていない場合には、委員を指名する。選挙の結果を通知する。特定の代表者が他に明示されていない場合には、本会の代表者を務める。会長は、2年の任期で会員によって選出され、再選はされない。
集会において、賛成票と反対票が同数の場合、会長には決定投票権がある。会長の任期を終えた後2年間、理事会において選挙

権を持たない定数外の相談役として留まる。

- b) 学会々長は、本会々長が不在の場合、能力を欠如した場合には、本会々長のすべての任務を代行する。
学会々長は、2年の任期で会員によって選出され、再選はされない。
学会時に行われる本会総会で、本会々長に就任する。
- c) 事務局長は、本会と常置委員会のすべての集会の議事録を作成する。
会員の申請書を受け取り、処理し、新しく選ばれた会員名を本会の会員へ通知する。会員とその現在の住所をのせた正確な名簿を維持する。本会の集会の通知を送る。
定例理事会に先立って、正会員候補者のリストを送る。本会の通信を処理する。事務局長は、本会々長および学会々長の両者が不在あるいは能力を欠如した場合には、本会々長としての任務を果たす。
事務局長は4年の任期で会員によって選出され、もう2回、4年任期つまり合計12年間再選されることができる。役員の任期が切れる2年前に、事務局長の推薦が行われ、総会で選挙される。次期事務局長は、選挙権のない定数外役員として理事に加わり、2年後にはその完全な理事会メンバーとなる。
- d) 副事務局長は、4年の任期で選挙権のない定数外の役員として、理事会によって選出され、再選は理事会の判断で行われる。
- e) 会計は事務長が作成して、専門会計士事務所によって監査された年間決算書に関して、監査責任を持つ。会計は本会の財政状態の年間報告書を提出し、会費を払わなかったり、支払いが遅れたりした会員の名前を理事会へ毎年報告する。会計係は4年の任期で会員によって選出され、もう2回の任期、すなわち計12年間再選されることができる。
- f) World Journal of Surgery の編集委員長(編集委員会の議長)は、4年の任期で会員によって選出され、4年ごと再選されることがある。編集委員長は理事会の完全なメンバーである。
- g) 理事は、理事会のすべての審議と採決に投票権を持つ会員として参加する。一般会員から選ばれる理事は4人で、通常、2人づつ2年ごとに会員により選出される。理事の任期は四年で、再選はされない。
- h) 統合学会の評議員
直接関連学会から、さらに1人の理事が選ばれる。任期は他の4人の理事と同じである。

第2条 理事の選出

本会の総会における出席会員の選挙で、過半数票をえたものが役員として選出される。役員の推薦は、総会の議案録に掲載されている指名委員会、または10名の正会員によって役員に推薦された候補者として公表される。10名の正会員によって役員に推薦されたものは、選出されれば、役員を受諾するという意志表示を添えて、総会の12週以上前に、事務局長宛に書面で返答する。推薦を受けた候補者は総会の議案録に掲載される。

選出された理事は、直ちにその役職に就く。

第3条 役員の欠員

会長以外の理事に欠員が生じた場合には、次の定期総会までは、会長の指名した者が、その役職に就く。次の定期総会では、通常の方法で、その理事を選出する。

第五章 – 常置委員会

第1条 理事会

本会の理事会は、本会々長、学会々長、事務局長、会計、World Journal of Surgery の編集委員長、一般から選ばれた4名の理事、少なくとも150人以上の会員をもつ直接関連学会から選ばれた1名の理事から構成される。前会長、事務局長、副事務局長、事務長も、選挙権を持たない理事会構成員となる。いかなる場合にも、理事会の過半数が同一国から選ばれてはならない。本会々長は、理事会の議長となり、理事会を召集する。理事会はプログラム委員会を任命する(第2条)。

理事会は、本会の全般の運営業務と財政管理に責任を持つ。緊急の場合には、本会に代わって、すべての必要な動議も行える権威を持つ。このような動議が、永久的な政策になる場合には、(総会あるいは郵送による無記名投票によって)会員による最終的な承認を受けなければならない。理事会は、学会賞の受賞者を選ぶ。理事会は、少なくとも年1回開かれる。理事会に出席した理事の過半数が、動議の可決に必要である。

第2条 プログラム委員会

プログラム委員会は、本会々長、学会々長、事務局長、副事務局長、World Journal of Surgery の編集委員長、地方組織委員会(LOC)の議長、直接関連学会から選ばれたそれぞれの代表1名ずつを含む、8人から10人の会員によって構成される。プログラム委員会は、将来の学会の組織、主題、論文と演者の選択に関して、責任を持つ。プログラム委員会の委員の任期は4年とし、総会によって選出され、再選は1回だけ許される。

第3条 指名委員会

指名委員会は、議長として本会々長、学会々長と前回会長、事務局長、会計、World Journal of Surgeryの編集委員長、直接関連学会を代表する理事から構成される。指名委員会は、本会の定例総会で、会員に対して、本会々長、学会々長、事務局長、会計、編集委員長、一般から選ばれた4名の理事を発表する。また、理事会に対して、名誉会員の推薦も行う。

第4条 国際委員会

国際委員会は、以下の委員から構成される。

- a) 理事会の委員
- b) 学会の副会長：これは、本会および外科学全般に対する顕著な貢献を考慮して、国際委員会によって指名され、定例総会で本会の会員によって選出される。学会の副会長は、6名まで選ぶことができ、その数は国際委員会が決定する。副会長の再選は認めない。

- c) 国の代表者および200人以上の正会員を持つ支部長

本会の会長は、国際委員会の議長を務め、少なくとも2年に1回は会を召集する。

国際委員会の責任は、以下の通りである。

- a) 本会の政策を討議し、会員に伝える。
- b) 定例総会で選挙するために、将来の学会の開催地と日程を会員に推薦する。
- c) 次回の学会の副会長を6名まで指名する。
- d) 理事会のメンバーに対して、定例総会で選挙するために、以下の候補者を推薦する。
名譽会員、Société International de Chirurgie賞、Robert Danis賞、Réne Leriche賞、第三者によって与えられる他の賞
候補者の推薦は、事務局長宛に次回の総会が開かれる前年の終わりまでに、書面で届けなければならない。
- e) 会費未納のため除名する会員名を、定例総会で選挙するため、会員に対して推挙する。

第5条 国家委員会

10人以上の正会員を持つ国では、会員は支部(Chapter)を構成する。支部の会員は、国の代表者と2名の正会員からなる国家委員会を選出する。国家委員会のメンバーは、会員の過半数票と支部の定例会での選挙によって選出される。任期は4年で、再選は1回だけ許される。支部のない国では、理事会が国の代表者を指名する。国の代表者は、会員の申請の処理と、本会の事務局長の事務局との連絡を維持する責任がある。

どの支部も年に1回、支部会を開く。支部が連絡や国の代表者選出を怠った場合、国の代表者の任期が終わったときに、理事会は連絡を維持するために、新しい国の代表者を指名する。学会を開催する国の代表者には、学会を組織するための援助を行う重大な責任がある。

第6条 World Journal of Surgery の編集委員会

World Journal of Surgery の編集委員会は、理事会によって任命され、定例総会で選出された定数外の役員および会員とから構成される。定数外の役員とは、本会々長、学会々長、事務局長、編集委員長である。

その他の委員の任期は4年で、再選は1回だけ許される。World Journal of Surgery の編集顧問の任命は、編集委員長の提案で、編集委員会によって行われる。編集委員会の議長は、World Journal of Surgery の編集委員長となり、World Journal of Surgery に関連したすべての事項に関して、本会の代表者として務める。

150人以上の会員を持つ直接関連学会は、編集委員会に委員を1名送ることができる。その任期は4年で、再選は1回だけとする。

第六章 – 総会

会員総会は、World Congress of Surgery の開催中に開催する。本会々長は、総会を召集し、議案を整理し、議長を務める。会議議案は、学会の1日目で、総会の少なくとも48時間前には公布する。総会は、会長、事務局長、会計、編集委員長、国際委員会および指名委員会の報告と提案を受け取る。

総会では以下の事項を選挙する。

- a) 将来の学会の開催地と日程および次回の学会の6名までの副会長の選出に関する国際委員会による推薦
- b) 次回の学会の会長、事務局長、会計、World Journal of Surgery の編集委員長、一般から選ばれる4名の理事に関する指名委員会による、または第四条第2節に列記した会員からの推薦。
- c) 編集委員会とプログラム委員会に関する理事会からの推薦。

総会は、国際委員会から、会費未納による除名の推挙を受け取り、これを選挙する。

総会は、本会の会長または理事会によって会議事項に記されたすべての問題に関して、考察し、議論し、必要に応じて選挙する。

事務局長宛に、総会の少なくとも48時間前に、10人以上の会員から書面で要求があった事項に関しては、役員の選出を除いていかなる事でも、審議のため、会議議案に載せられる。

名譽会員は、総会で授与され、本会の賞と称号が審査の上で与えられる。

すべての選挙は、総会に出席した会員の過半数によって採決される。

例外は以下の通りである。

- a) 規約の変更(第九章)
- b) 事務局本部の位置の移動

- c) 本会の解散

これら3つの問題の採決には、総会に出席した会員の3分の2の票が必要である。

第七章 – 事務局

本会の事務局の本部は、本会の理事会によって選ばれた市/国に設置され、過半数の会員と総会の選挙での賛成が必要である。その位置の変更には、理事会のメンバーの3分の2の推薦と、会員総会の選挙での3分の2の票が必要である。

事務局は、本会の理事会と事務局長の判断で運営される。

事務局の構成は、副事務局長(外科医)、事務長、書記、および事務局長によって提案され、理事会によって認められた者である。

第八章 – 資産

本会の資産は、総会で決められた会費、学会の登録料、出版物の売上げ、出版物や学会での広告料、寄付金、遺産、準備金の利子、当資金、有用な他の資金などである。本会は、利益を求める科学的、教育的、専門的組織というステータスのために必要なことはすべて履行し、規約に述べられている価値ある対象に資金を使う。国家の支部または会員によって決められる支部の年間の予算は、個々に調整される。

本会には、特別な名称の2種類の基金がある。

- a) メンバーシップ基金: ある国家の財政的な制限によって、年会費を減免するもの。
- b) ISS/SIC基金: 寄付を集めて、この基金の特別な規則に従って活動を定める。

第九章 – 規約改正/本会の解散

この規約の改正や本会の解散については、理事会の過半数、国際委員会の過半数、あるいは20人以上の本会の会員によって提案される。改正案または本会の解散は、事務局長宛に、少なくとも総会の12週前に、書面で提案されなければならない。そして、総会の少なくとも4週前には、本会のすべての選挙権をもつ会員に知らされ、定例総会で会員の3分の2以上の賛成があれば議決される。

第十章 – 採用

本会の定例総会で、この規約は公示され、出席した会員の少なくとも3分の2以上の賛成が得られれば、この規約は採用され、すぐに効力を發揮する。



International Society of Surgery (ISS)/Société Internationale de Chirurgie (SIC)の規約は1989年9月13日、トロントの総会で批准され、1991年と1993年の総会で修正された。

万国外科学会 (ISS) の歴史

1850年以前には、科学における国際的な交流はほとんどの場合、個人の間でなされていたかまたは、政治上の出来事で例外的に取り上げられる程度であった。この状況は、後に国際関係の変化と共に変化し、国家の融合・併合に伴い、科学はより一層個別の国家的統制のもとに置かれるようになった。そのため、国際的な専門分野の学会の歴史をみると、その分野の科学的な発展と共に学会の会員に影響を与えたそれぞれの国の社会的政治的背景も考慮する必要がある。

1850年以後に有効な手術が開発され、痛みや創感染を除去することができようになり、その後70年にわたり、外科は医学の中で最も活気ある分野になった。この成功の結果として、また成功をもたらした前提条件でもあるが、たくさんの国家レベルの外科学会が、ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリア、日本で設立された。1872年最初に設立されたのは、ドイツ外科学会(Deutsche Gesellschaft für Chirurgie)であった。しかし、これは外科医の間に不協和音を醸し出したため、その接点を見出すために国際的な学会が必要になった。まず最初に手がけられたのは、3年ごとの国際的な医学会であり、始められたのは1860年代であった。この時代の集会では政治の世界にみられたように、医学界にも国家主義的傾向が見え隠れしていた。

20世紀の初めまでには、あちこちで外科学の国際学会が必要であると考えられるようになった。そのため、1902年にAntoine Depageとそのグループが率先して、ベルギーの外科医とフランス、ドイツ、スイスからのゲストたちの集会を行い、万国外科学会(LA SOCIETE INTERNATIONALE DE CHIRURGIE)を設立した。一部ベルギー国王の寄付もあり、その永久的な本部を中立国ベルギーに置いた。最初の学会規則第1条には、本会の目的は研究と討論により、科学の進歩に貢献することであるとされていた。

最初の国際学会は、3年後にブリュッセルで行われた。会長を務めたのは、もう一つの中立国スイスの外科医Theodor Kocher(1840~1917)であった。Theodor Kocherは、ヨーロッパと海外でその業績が広く翻訳されており、また精力的に各国を廻っており、有名であった。彼の名声は、1909年に外科医としては初めてノーベル賞を授与したことであげられた。この時までに本会の会員数は600名となり、そのうち200名が最初の学会に出席した。こうして、1905年に本会は完全な機構ができあがり、次の2回は1908年と1911年にいずれもブリュッセルで開催することを決めた。その後、1914年に本学会は勇躍大西洋を横断してニューヨークで開催された。

第一次世界大戦中およびそれ以後には、国際的な学術交流というこわれやすいかけ橋は低調になった。このため、1918年ロンドンで行われた同盟国のみの学術集会では、新しい国際学会の設立が提唱され、その会員は同盟国(と恐らく中立国)のみの科学者に限定されることとされた。科学の世界が、政治的な陣営に分裂するというこの悲劇的な現象は、科学の歴史上初めてのことであった。これは本会にも重大な影響を与え、以前の中心的な有力会員を締め出し、公用語からドイツ語を削除した。この時点ではスイスの外科医は再び本学会の運命に深く関わるようになった。甲状腺炎と腱鞘炎における業績で有名な F. de Quervain (1868~1940) は会員を再び合同させるよう試みた。12年間にわたり、彼は旅行、手紙、電報を含めて無数の個人的な接触を行い、1920年のパリ、1923年のロンドン、1926年のローマ、1929年のワルシャワと、1932年までに続けて学術集会を成功させた。彼がマドリードで会長をした時に、それまで除外されていた国々の会員を迎えることができ満足した。仲介人および公的な使節であった De Quervain にとって度重なる侵略的な事件によって仕事は困難となり、しばしばその地位も失いそうになった。政治は学会に影響を与えていた。最初は、1935年でイタリアがアビシニアに侵攻した時のカイロでの学会、次は1938年でドイツによるオーストリア占領のため、最終段階で開催地はウィーンからブリュッセルに変更された。

第二次世界大戦後、本学会は戦争に負けた国々の外科医の再統合に注意深く着手した。主催国と外交関係のある国々の会員は直ちに学会へ招待された。そのため、1947年にロンドンで戦後初めて行われた学会にはオーストリア人とイタリア人が出席した。日本人と西ドイツ人は1949年のニューオリンズの学会に招待されて、1951年のパリの学会から出席するようになった。

しかし、外科学自体の急速な発展によって、新しい問題が立て続けに生じ、学会は1年おきに開催する必要が起きた。外科学の専門化も進み、新しいタイプの専門的な学会が必要となり、特に若い外科医は母体である本会に少し興味を失うようになった。このような状況にもかかわらず、30年代後半まで1500名だった会員数は、70年代半ばにはほぼ倍になった。これは一部には、今まで加わっていなかった新しい国家の外科医が国際的な交流を切望したためであり、また一部には外科学が一つの組織の下に、結束するべきであるという考えが増してきたためであった。

1960年代に、理事会でベルギー人が過剰に優勢であると思っていた海外の会員の間に、ある種の“不安”が広がった。つまり、それまでの会則では、会長、事務総長、会計係はすべてベルギーの市民であり、後の2つはブリュッセル出身であると決められていた。また、本部は永久的にブリュッセルになければならないという規約もあり、これらに疑問がもたれるようになった。1969年エノスアイレスの学会で Owen Wangensteen はこれらの一般的感情(不満)を強く表明し、ベルギー人が ISS/SIC の幼少期と成長期を育ててくれたことに感謝するが、本学会がすでに

自立するのに十分な時期が来ていることを指摘した。

1971年の国際会議で Frank Gerbode と Jonathan Rhoads は理事会ではいかなる国も過半数を越えてはならないということ、また学会の会長はベルギー人である必要はないということについての規約の変更を提案した。この提案は圧倒的多数により、支持された。しかし、本部の問題は討議されず、事務総長 Jean Van Geertruyden 教授の入念な管理のもとに、ブリュッセルに本部は留まり、長期間秘書官を務めた Mlle Bousseret によって運営された。

Fritz Linder は 1973 年の学会の会長ばかりでなく、1973 年～1975 年の 2 年間本会の会長も務めた。この期間中、Henri Bismuth、Stig Bengmark、Frank Gerbode、Fritz Linder、Jan Nielubowicz、Jean Van Geertruyden らによる理事会が開かれ、学会誌の発行についての話し合いがあった。そしてついに、World Journal of Surgery が創設され、1977 年に精力的な編集委員長 Marshall Orloff のもとにニューヨークの出版社 Springer によって最初に発行された。この雑誌は、それまで早い出版の妨げとなっていた多くの公用語をもつ厄介な歴史の “Bulletin (公報)” に取って代わった。

Frank Gerbode は Fritz Linder の後を継いで、本会の復活に活躍した。当時の学会はどちらかというと自己満足になっており、若い外科医を責任ある地位につけることに否定的で、正会員は 2000 人を下回っていた。本学会は “名譽” 会員があまりにも多くなり、一方、新しい会員 (new blood) は不足して、危険な状態であった。財政も不安定になり、1977~78 年にはかなりの赤字が避けられなくなった。

ベルギー人は 70 年にわたって由緒ある本学会の管理運営という重荷を背負ってきた。このことは Owen Wangensteen によって約 15 年前より指摘されていた。もしも総会で 3 分の 2 以上の賛成が得られれば、ISS/SIC の本部を他の国へ移しても良いとするには必須であり、時を得た正当なことと思われた。これは 1979 年サンフランシスコの総会で実施された。ベルギー人の定めた法に従って、本学会は法律上解散を決定すると同時に再構成のための集会を召集することとした。(どちらも圧倒的か半数によって決定された。)

その後、本会の本部をスイスのバーゼルに置くことが決定された。新しく選出された事務総長の要請によって、International Foundation of Postgraduate Surgery からの寄付と Basel 大学の 1979~1983 年までの寄付により、本会は負債を清算して新しい出発をすることができた。その新しい出発と良質の World Journal of Surgery の発行に関しては、楽天的原因がある。この雑誌は、1981 年の初めに編集委員長が突然辞めたあと幾分危機的状況に陥りかけた。幸い、前 American College of Surgeons (ACS) の会長の James Hardy が、2 年間有能な編集委員長として職務を果たしてくれた。James Hardy が 1983 年に会長に選ばれたとき、編集委員長は Missouri 州 St. Louis のワシントン大学医療センター外科の主任教授 Samuel A. Wells の手に委ねられた。

最近7回の2年ごとの学会は、主に新しい形式のために徐々に人気が出てきている。その1つはまず、すべての外科医の興味ある話題を選ぶようになったことで、もう1つは色々な専門家を対象にした会を組織したことである。

こうした改革のうち成功したものの1つは、1979年サンフランシスコのISS/SICの大会で統合された学会として、International association of endocrine surgeons (IAES)が創設されたことである。その会員はWorld Journal of Surgery、Newsletters、2年に1回出版される“State of the Art of Surgery”の予約購読などの特典をすべて得た。本会の中でIAESは、その事務局を独立し、会員の名簿も分けていた。

1989年に、9月10日~16日間までトロントで学会は開かれ、2つの重要な問題が総会で可決された。まず、最も重要なことは、“International Association for the Surgery of Trauma and Surgical Intensive Care (IATSIC)”が統合された学会として創設されたことである。もう1つは、以前のあいまいな点を取り除いた、全く新しい規約が満場一致で可決されたことである。

StockholmでのInternational Surgical Weekとして組織された第34回万国外科学会では18の学会が参加し、先に述べた2つの目的に過去のどの大会よりも近づいた。その主な構成は、一般外科および各専門家のラウンドテーブル、いくつかの特別講義、討論時間の十分ある一般演題、映画やビデオ、討論のあるポスターセッションなどであった。スライドもなく、講演原稿ももたずに朝食や昼食時のパネルを行ったのは、たいへん好評であり、特徴のない他の学会の雰囲気に全く勝っていた。これは1人の座長と2、3のパネリストが、さまざまな分野に関して、形式ばらない方式で、専門家の間で討論を始めるというものであった。多分野にまたがって自由に交流できるInternational Surgical Weekへの出席者は過去10年間に1000人から1989年のトロントには2000人にそして1991年のストックホルムには同伴の人450名を含めて2300人に増加した。主要な分野は、消化器外科に特に重点をおいた一般外科学であるが、外傷学にも焦点が合わされていた。この考え方は、CICDが偶数年に独自の大会を別に行うという残念な決定をしたにもかかわらず、今後も続いていくだろう。しかし、International Surgical WeekへのCICD参加が続けられることを願っている。

第35回万国外科学会では、2つの統合学会にさらにもう一つ重要な付属学会が追加された。それはthe Founding of the International Association For Surgical Metabolism and Nutrition (IASMEN)であった。この学会では外科病態生理学という重要な分野が研究される。将来の学会では、一般演題の形式で参加してもらい、この分野に関する論文の査読委員として参加してもらうようになるであろう。

(将来の計画について)

ISS/SICは2つの目標を念頭に置いて機能を果たしたいと思っている。1つは、細かく分かれた専門分野の外科医すべてに興味ある問題に関して、合同で議論するいわゆる“外科医の館”を運営できる共同機構“umbrella organization”ともいるべき団体として機能することである。現在、インテンシブ・ケア、創傷管理、ショック、多発外傷、抗生素使用法、縫合材料、そして最後に忘れてはならない医師の義務に関する問題など共通の話題がある。ISS/SICは、消化器外科の重要なトレーニングの基礎訓練としての一般外科のレベルを維持し、また、一般外科の中軸として体表外科と内分泌外科を重視し、さらに、他の専門分野との協力が必要な外傷学とインテンシブ・ケアにも注目している。

もう一つの目標は、ISS/SICはそれ自体、大規模な機構に成長することを目指してはいないということである。しかし、世界中の外科医が、まとまっていくらかの時間とエネルギーを投じ、良質の理性的な国際的事業を行えるようにすることを望んでいる。この試みに参加してみようと思った外科医は、ISSに参加してすぐ、この活動が知的刺激にあふれ、人間的にもやりがいがあるということに気が付くであろう。

現存する国際医学会の中で最古のISS/SICは、90年の間、関与した国々や外科領域の間の理解と寛容とを促進してきたその役割を、今まで新たな理念の下で引き続き行われていくことが望まれている。歴史上の重大な局面に立った今、国家の枠を越えた科学と外科の統一に対して「気高い牧師」による強い信念が、過去90年間5大陸24都市において、外科についての多くの有益な討論をもたらしているのである。

万国外科学会日本支部ニュース No. 1

発行責任者 出月康夫

編集責任者 比企能樹

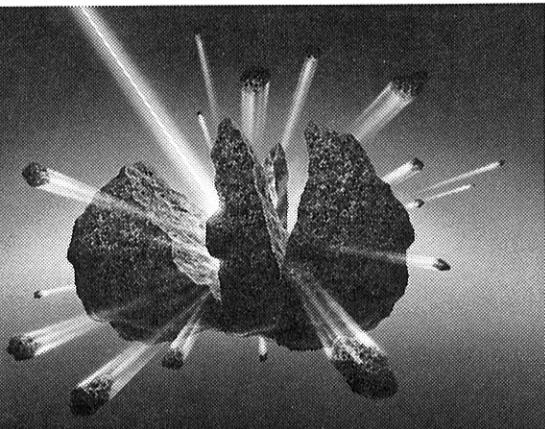
発行所 北里大学東病院消化器外科

〒228 神奈川県相模原市麻溝台2-1-1

TEL 0427-48-9111, FAX 0427-45-5582

腫瘍組織にダイレクト・アプローチ

世界中で広く使用されている癌化学療法の基本的薬剤



禁忌(次の患者には投与しないこと)

1. 本剤に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者
2. ソリブジンを投与中の患者 [フルオロウラシル系薬剤との併用により、重篤な血液障害が発現し、死亡に至った例も報告されている。]

※ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意の詳細は製品添付文書をご参照下さい。

抗悪性腫瘍剤

注射療法
5-FU 協和
(フルオロウラシル注射液)

経口療法
5-FU 錠50・100 協和
(フルオロウラシル内服剤)

- DNA合成阻害、RNA機能障害により強い抗腫瘍効果を示す。
- 腫瘍組織への薬物移行が良好で、代謝拮抗作用の発現が速い。

警告

- 1) メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法(5-FU協和(注射剤)のみ): メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法は高度の危険性を伴うので、投与中及び投与後の一定期間は患者を医師の監督下に置くこと。また、緊急時に十分措置できる医療施設及び癌化学療法に十分な経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ行うこと。
なお、本療法の開始にあたっては、両剤の添付文書を熟読のこと。
- 2) 抗ウイルス剤ソリブジンとフルオロウラシル系薬剤との併用により、重篤な血液障害が発現し死亡に至った例も報告されているので、併用を行わないこと。

5-FU協和——

輸入発売元／協和発酵工業株式会社

製造元／エフ.ホフマン・ラロシュ社

5-FU錠50・100協和、5-FUドライシロップ協和——

製造発売元／協和発酵工業株式会社

提携／エフ.ホフマン・ラロシュ社



[資料請求先]
協和発酵工業株式会社
東京都千代田区大手町1-6-1